

讀者の領分

日本水彩畫會研究所には他の學校のやうに春夏冬の休暇ありや、學期初めは何月よりなりや、寄宿舎の設けありや、また試験ありや（東海畫狂生）◎年末年始に三週間、夏は七月二十日より九月十日迄休み、學科なき故何時にても入學差支なく、また入學試験もなし、寄宿舎の設けもなし、詳しくは規則を取よせ見られよ■小豆島寫生記行の發行所及定價並に『寫生趣味』發行所紫欄會の所在を知りたし（東都の畫狂生）◎前者は日本橋區馬喰町二丁目興文社にして定價金壹圓八十錢位ひの豫定の由、後者は臺北小南門外一丁目三十二、紫瀾會なり■本年夏期講習に出張を受けたと思ひますが、何月頃迄にお願いしたたらよろしいか一寸紙上で伺ひます（兵庫縣有志の一人）只今二三の申込あり、何處でもよけれど可相成は熱心家の澤山集まつた處へ參つた方が自他の都合よき事と思ふ、それには御相談は出来るだけ早く願ひたし、いくら勉強しても一夏に三ヶ所より多くは開けぬから

■新年お日度度う、相變らず諸賢の御勇健を祈る（愛知縣夕暮生）■諸君！明けましてお目出度う、今年も不相變繪葉書交換及御交際の程をお願いいたします。新年號の『みづゑ』額縁と繪畫」は頗る面白く拜見、「水彩畫の不振」は有益のお話、「三脚物語」は嬉しかつた、原色版は前號よりは感心出来なかつた（神田周三）■『みづゑ』六十九は非常によい出来だ、申分がない、中でも「麓の流」は原畫を見るやうに思はれた（見ないけれど）、記事もい、「春鳥畫談」は讀むでゆくうちひとり二度三度うなづかれた、また七十の「初冬」は實に初冬らしく、「能の面」は僕のやうなものには爲めになる、「雪の山」の松の色（目のさした）はよい、僕はいつも松に失敗するが此繪で大に得る處があつた、近來原色版が進歩したのは喜ばしい事である（大阪洗帆生）■十一月の『みづゑ』（臨時増刊號）の記事中、汀鷗氏の「白峯の麓」の十一節以下十七節あた

りまで藤村詩集を讀むごとき懐かしさを感じた、特にトンボの小屋の一夜は躍如たるものがある（内藤新宿、〇〇生）■眞面目なる肉筆水彩繪葉書交換希望即時返葉（伊豫松山市萱町二丁目七五、吉田伊勢雄）■桑田君にお答申上候、B生即ち小生に御座候、永遠に自然の兒として御交際を願ふ（神戸市京町十番秋馬會々員伴利也）■初學の吾々此度同好數名を得てアケボノ洋畫研究會を起し廻覽畫帖を發行してゐます同好諸君の御賛成を願ひます規定は二錢郵券封入に申込下さい（神戸市兵庫神明町三四、大出方MR）■當地方にも夏期講習を一度開いて下さいいつも關西方面のみでまことに残念に思ひます當地方には各所に温泉場もあり海水浴場もあり會場には困らぬことと思ひます特に松島邊に開かれたら他地方の會員も多く集まりませう幹部及有志の御考慮を煩はします（仙臺河南生）

*

*

*

*

*